

課題名	鏡視下手術におけるフットサイトモニター
研究代表者と所属	西澤祐吏（大腸外科）
共同研究者と所属	伊藤雅昭（大腸外科／医療機器開発センター）

■課題情報

機器分類 ()内は一般的名称等*	該当に○（複数可）				いずれかに○	
	新規性				新規製品	既製品の改良
	方法	機構	材料	他		
診断機器 ()						
治療機器 ()						
手術機器・器具 ()						
その他 (手術支援器具)		○			○	

* 「一般的名称等」は薬機法上の「一般的名称」または「内視鏡」「放射線機器」などでも可。

■進捗状況（実施済は●、現段階は○、未実施は空欄、該当せずは×）

クラス 分類	ニーズ抽出 含アジェンダ	アカデミア 連携	企業マッチング			特許 出願	試作	製品 化	臨床 研究	治験	保険 適用
			開発 合意**	NDA	共同研究 契約						
無	●	×	●	●	●	●	●	●	×	×	×

** 「開発合意」は企業が開発に合意している場合に○。

■詳細情報

対象疾患	手術全般
医療現場ニーズ	手術で使用するフットスイッチの踏み間違えの回避
アセットの概要	本装置（足元確認システム）は、ベッド下の足元のフットスイッチを照明すると同時に撮影して、その映像を内視鏡モニター横に配備したモニターに映し出す。したがって、術者は内視鏡モニターから目を離すことなく、フットスイッチを視認することができ、手術を円滑に行うことができる。製品化済
関連する研究費 (申請中を含む)	千葉県の補助金
論文、特許、共同研究等	特許出願済「足元確認システム」(2017年)

鏡視下手術におけるフットサイト 모니터の開発

■臨床ニーズ:

手術現場では多種多様なパワーデバイスが使用され、パワーデバイスごとにフットスイッチが装備されている。したがって、現状では手術ベッド下は多くのフットスイッチが混在している。しかしながら、手術中は術者は術野を注視している。また、内視鏡などを使用している場合には、術野と手術用モニターを視界に入れながら施術する。手術ベッドにはオイフがかぶせてあるので、立ち位置から足元の視認性はよくない。そのため、フットスイッチを踏むために足元を確認しようとする、背中を大きく反らせたリ一歩下がるなどして上体を後ろに移動させる必要がある。すると術野ないし手術用モニター上の手術部位から目を離してしまうことになり、フットスイッチを踏んだ後に手術部位を慎重に再確認する必要があるため、手術時間が長くなる要因の一つになっていた。

■技術シーズ:

本装置(経肛門ドレーン装置)は、ベッド下の足元のフットスイッチを照明すると同時に撮影して、その映像を内視鏡モニター横に配備したモニターに映し出す。したがって、術者は内視鏡モニターから目を離すことなく、フットスイッチを視認することができ、手術を円滑に行うことができる。

